

そよ風

2025年2月発行
vol.52

小児 整形外科 ってご存知ですか？

骨、筋肉、腱、神経、靱帯など

赤ちゃんやこどもの運動器、
すべての異常に対する
診療を行います。

病気や怪我、その後遺症

整形外科

シンタニ コウスケ
新谷 康介

先天性の形態異常はもちろんのこと、四肢や体幹のわずかな異常であつても、こどもの成長を見据えた診療が必要であるため、慎重な対応が求められます。

当科では、小児科をはじめとする他科や、地域の医療機関・健診機関と密に連携しながら、質の高い医療を提供しています。特に、発育性股関節形成不全（先天性股関節脱臼）、先天性内反足、多合指（趾）症、四肢形成不全などの先天異常や、四肢変形、脊柱変形、四肢長不等（感染症や外傷後、骨系統疾患など）といった小児整形外科特有の疾患に対して、高い専門性をもって診療を行っています。治療にあたっては、機能的・整容的な観点を考慮しながら、最善の方法を選択しています。さらに、骨折や感

染症など緊急性の高い疾患にも対応し、迅速な診療体制を整えています。

● 四肢・体幹に異常がある

● 運動器の病気や怪我をした

● 乳幼児健診や学校検診で異常を指摘された

など、少しでも気になることがございましたら、一度当院の整形外科までお問い合わせください。

整形外科の初診は完全予約制とさせていただきます。診療に関するお問い合わせは、06・6645・2121（代表）までご連絡ください。小児整形外科の診療は、毎週火曜日・木曜日の定期診察日に加え、その他の曜日も対応しています。緊急診療が必要な場合も、可能な限り対応いたしますので、お気軽にご相談ください。

せんてんせいこかんせつたっきゅう

先天性股関節脱臼



せんてんせいないはんそく

先天性内反足



ぶんべんまひ

分娩麻痺



しゃけい

斜頸



たごうししょう

多合指(趾)症



へんけいきょうせい

変形矯正 (先天異常・外傷後)



内視鏡的逆流防止粘膜切除術

治療前



治療後



胸やけなどの逆流症状は、日本において約20%の方に認められます。胃の内容物が食道に逆流することで逆流症状や食道の粘膜傷害を引き起こす「胃食道逆流症」という病気が主な原因で、プロトンポンプ阻害薬などの胃酸を抑える薬が治療の第一選択となっています。しかし、このような薬剤には逆流自体を減少させる効果はなく、薬物療法で症状が十分に改善しない場合や、長期内服を希望されない方には外科的な逆流防止手術が勧められていました。

当院では治療前に専門的検査を施行し、治療効果が期待できる方に対して治療を行っています。内視鏡検査や治療は2024年9月にリニューアルオープンした地下1階の内視鏡センターで行っており、皆様により安全・安心・快適な医療を提供できるようにになりました。逆流症状にお困りの方は、ぜひ当科へご相談ください。

胸やけ 解決の 新たな治療法を ご紹介！

消化器内科

サワダ アキナリ
沢田 明也

2022年4月に、体への負担が少ない胃カメラを用いた内視鏡的逆流防止粘膜切除術が新たな治療の選択肢として登場し、注目されています。ゆるんだ胃食道接合部(胃と食道の境目)を胃カメラで粘膜の一部を切除したり縫縮したりして締めることで逆流防止機能を回復させる治療(図)で、治療時間は約1時間と短く、入院期間も1週間程度で体の表面に傷がつくこともありません。

看護部シリーズ

心不全看護認定看護師の ご紹介



看護部

心不全看護認定看護師

サカグチ アヤカ
阪口 綾香

心不全は、さまざまな病気が原因で、心臓の機能が低下する状態を言います。悪化を防ぐためには治療を行うだけでなく、食事や服薬などの日常生活の管理も非常に大切です。心不全看護認定看護師は患者さんの多様な症状や身体の状態から、病状に応じた病気の管理方法を一緒に考え、継続できるように支援しています。また、医師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、ソーシャルワーカーと共に心不全チームとしての活動も行っています。患者さんがその人らしい生活が送れるように、ACP(アドバンス・ケア・プランニング：人生会議)や緩和ケア、地域連携にも力を入れています。

ハートノート®

「大阪心不全地域連携の会」で作られた心不全の自己管理ツールです。心不全についての説明や管理の方法が詳しく書かれており、体重や血圧などを記録できるようになっています。多くの医療機関で使われており、当院でも活用しています。



ACP手帳

心不全の患者さんやご家族が医療従事者と一緒に「人生会議」を行えるように、当院の心不全チームが作成しました。この手帳を使うことで、将来の治療やケアについて話し合い、患者さんの希望や思いを共有することができます。



あなたのLDLコレステロール、大丈夫ですか？

循環器内科

ヤマザキ タカノリ
山崎 貴紀

「コレステロールが高いと脳卒中や心筋梗塞が起こりやすくなる」ということを、よく耳にされるかと思いますが。その人の病気や合併症などに応じて、コレステロールの基準値が異なっていることはご存知でしょうか？

我々、循環器内科では狭心症や心筋梗塞、（かしのくせいでいどうみゃくこうかしょう）下肢閉塞性動脈硬化症などの動脈硬化の進行によって引き起こされる病気を多く診療していますが、特に注意

していることは、その患者さんが再発しないようにするための「二次予防」です。動脈硬化によって病気を繰り返すことは、その患者さんの生命予後や日常生活の活動を制限してしまうことになりかねないからです。高血圧、糖尿病、脂質異常症や喫煙習慣は動脈硬化のリスクとなりますが、中でも悪玉コレステロールであるLDLコレステロールが高い脂質異常症は大きなウェイトを占めています。近年、心筋梗塞などの動脈硬化が強い患者さんの二次予防を目的としたLDLコレステロールの管理目標値が厳格化されてきています（100mg/dL未満→70mg/dL未満、図1）。

循環器内科では、以前の管理目標値のままになっている患者さんが再発してしまう例などもしばしば経験しており、より多くの患者さんにおいて二次予防の徹底をする必要があると考えています。昔、心臓や下肢のカテーテル治療

を受けたことがある方や、糖尿病で通院中の患者さん、60歳までに心筋梗塞と診断されたご家族がいる方、もしLDLコレステロールの治療に興味をお持ちでしたら、循環器内科の受診を検討してみてください。

最新の基準であなただやご家族を動脈硬化からお守りしたいと考えています。

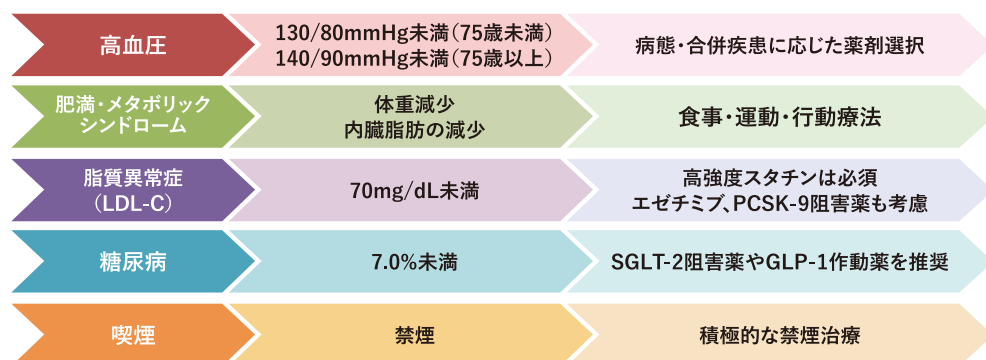


図1：動脈硬化性疾患の二次予防の管理目標と治療

薬剤性水疱性類天疱瘡について

すいはうせいいるいてんぽうそう

皮膚科

ヒロヤス ショウ
廣保 翔

すいはうせいいるいてんぽうそう
水疱性類天疱瘡は、全身に赤い発疹と多数の水ぶくれができる病気です（図1）。治療をしないと、発疹部のかゆみや水ぶくれ部の痛みがひどくなり、眠れないくらいになることがあります。また、水ぶくれから細菌感染が起きると、命に関わる場合もあります。このため、本疾患の治療は重要です。



図1 水疱性類天疱瘡に特徴的な赤い発疹と水ぶくれ

本疾患は歴史的には非常に稀な病気です。少し前の厚労省の調査研究班による研究では、重症例に限ると日本では約8,000人の患者さんしかいないと報告されていました。しかし最近、水疱性類天疱瘡の患者さんが増加しています。

その原因の一つとして、糖尿病薬であるDPP4阻害薬や、がんの治療薬である免疫チェックポイント阻害薬による薬剤性水疱性類天疱瘡の増加があげられます。こうした水疱性類天疱瘡は通常の薬疹と異なり、原因薬を開始して半年から数年後に発症することが特徴です。

水疱性類天疱瘡の初期には水ぶくれがなく、赤い発疹が見られる程度であることが多いため、他の皮膚疾患と区別がつかず、長期間にわたってかゆみ止めや保湿剤を処方されて様子を見られている患者さんが少なくありません。もし、これらの治療を受けている方で、かゆみを伴う治りにくい皮疹がある場合は、主治医を通じて皮膚科までご相談ください。



新任教授のご案内

整形外科

寺井 秀富
テライ ヒロトミ

この度、新たに整形外科教授を拝命いたしました寺井 秀富と申します。

整形外科は首から下の運動器すべてを扱う診療科です。

大学病院では、脊椎外科・関節外科・手の外科・足の外科・リウマチ外科・肩関節外科・小児整形外科など多くの専門分野に分かれ、それぞれ各分野の専門家が診察にあたっていることが特徴です。

内視鏡を用いた脊椎手術や、ロボットを用いた関節手術など、最先端かつ低侵襲の治療を行っていることで全国的にも有名です。

診察をご希望の方は、かかりつけ医を通してお気軽に受診していただければと思います。

News

薬剤部をリニューアルオープンしました！

薬剤部

ヤノ ツバサ
矢野 翼

◆ 薬剤部調剤室カウンター

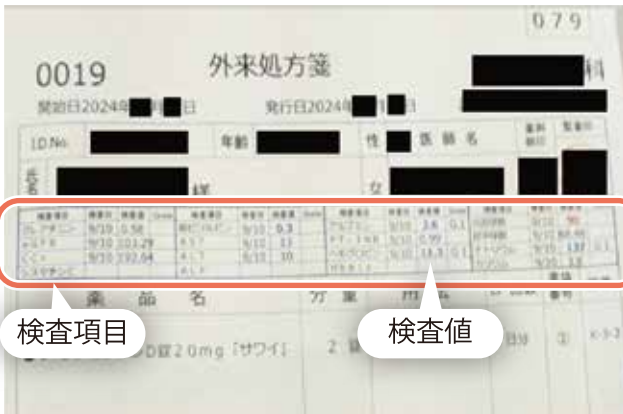


薬剤部調剤室は、2024年9月に1階から地下1階へ移転し、リニューアルオープンしました！

当院の外来では、投薬が必要な場合、原則として患者さんは院外の調剤薬局に処方箋を提出して薬を受け取っていただきますが、入院や一部外来の薬は調剤室で準備しています。薬剤部では、粉薬を自動で調剤する散剤調剤ロボットや、錠剤を一包化できる全自動分包機など、最新機器を導入することで薬剤提供までの待機時間短縮に努めています。

また、誤調剤を防ぐため、常に相互作用、用法・用量、休薬期間などのチェックを行うシステムを導入し、適切な処方がされているかを確認しています。薬剤師が処方内容を監査し、必要に応じて医師に処方

◆ 検査内容が記載された処方箋



方内容の確認、例えば、適正な用法用量に変更する等により、有効で安全な薬物治療の提供に貢献しています。さらに、既に院外処方箋に表記されていた内容ではありませんが、一般的な検査データを院内処方箋にも表記し始めました。例えば、患者さんの腎臓や肝臓の機能を処方箋上に記載します。これにより、適した用法や用量であるかどうか等が処方箋を見ることで速やかに評価できるようになります。

以前はシステム上関連づけるのが困難であった症例に対しても、総合的な評価が可能になり、より質の高い処方監査を行うことが可能となりました。薬剤部は、引き続き患者さん満足度の向上に努めてまいります。

